学　年	教科等	題材名	日　時
第６学年	図画工作科	光の世界	令和５年７月 20 日(木) ５校時

研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成
研究内容１の手立て	**【子どもが自分の思いをもって活動するための指導方法の工夫】** 本時は、前時に見付けた光の効果を自分たちの活動にどう生かしていくか、ということについて話し合うところからスタートする。写真や動画で残しておいた前時の記録を手がかりに話し合わせることで「波のゆらめきを表してみたい。」等、発想や構想に関する思いをもつことができるようにする。
研究内容２の手立て	**【造形遊びをする活動において「つくり、つくりかえ、つくる」ための指導方法の工夫】** 子どもが「つくり、つくりかえ、つくる」ために、やってみたいことが似ている者同士でグルーピングし、活動させる。互いがめざすものを共感的に理解しながら形にしていくことができるため、「それもいいね。」「こうするともっとよくなりそう。」等、よりよい表し方をめざして、対話しながら活動し続ける姿が期待できる。また、活動が停滞しているグループには、停滞の理由を尋ね、適宜助言することで、活動し続けることができるようにする。

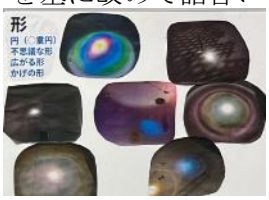
○　子どもの姿からの報告

自分の思いをもたせるための手立て

○　前時に見付けた光の効果を、自分たちの活動にどう生かすか話し合わせた。光の効果は、形、色、動きに分けて整理し、掲示資料とタブレット型端末上で確認できるようにした。

授業外のところで既に話し合っていたり、休み時間のうちに材料に触れ、活動をイメージしたりしていたため、前時の記録を基に改めて話合いをする姿はほとんど見られなかった。

【休み時間の様子】



造形遊びをする活動において「つくり、つくりかえ、つくる」ための手立て

○　前時の終末時に「次の時間にやってみたこと」をそれぞれ考えさせ、考えが似ている者同士でグルーピングし、活動させた。

海、カラフルできれいな夜空、暗い光等、最初にもったイメージの実現に向けてつくり続けたグループもあれば、材料を自由に試すなかで思い付いた活動を展開していくグループもあった。

○　活動が停滞しているのか、思考中なのか見極めながら、必要に応じて助言した。

教師の助言よりも、材料を介した子ども同士の対話の方が、つくり続けるきっかけとなっていた。

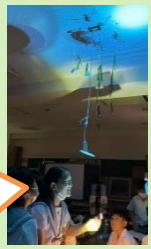
「〇〇してみたい」という自分の思いをもち、その実現に向けて創造的に発想や構想を繰り返しながら、自分が思い描いた光の世界をつくりだしていく姿

魚の影の形を天井にうつしたいけど、なかなかうつらないな。

この高さなら天井に影がうつるかな？

少し下にした方がいいかもね。

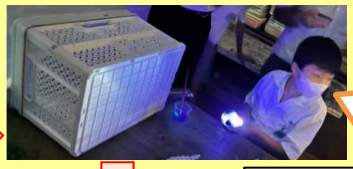
影がうつったね。次は、カラーセロハンも使ってみよう。



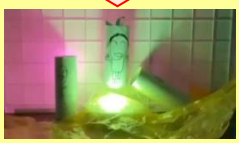
見つけたこと
天井にうつしたい材料を貼ると、見えなくなってしまう。天井からひもを吊るして、それに貼るとちょうどよかった。緑色のカラーセロハンも吊るすと、海藻みたいになって海の世界を表すことができた。さらに、水を揺らすと光が揺れて綺麗に見える。

【最終時のふりかえりの記述】

このパネルに光を当てるとどうなるかな。



この位置から、かごの底に光を当てるとスポットライトみたいだね。



光で遊んでいるときにスポットライトのような光を見つけました。そこから、アイドルのようなステージにしようと思い、つくりました。光の効果を生かして、ステージのかべにアイドルの顔をうつしたり、下からの光をセロハンで色づけしたりしました。音楽と合わせてお楽しみください。

【最終時のふりかえりの記述】

【最終時につくりかえたグループ】
※　ミニ鑑賞会で、上と左のグループからヒントを得ていたことが分かる。授業前から画用紙を切って準備していた。

〔　可愛い世界　〕
はじめは、色水を天井にうつすことで「かわいい」を表現しようとしていました。でも、色だけでは自分たちの個性が出せないと考えて、メリーゴーランドをつるしてかわいい色で照らすことにしました。他のグループのよいところも取り入れて、音楽もつけました。納得のできる「かわいい」ができました。

【最終時のふりかえりの記述】

○　考察

子どもの姿から分かること（〇…成果、●…課題）

○　前時の終わりから本時に至るまでの間にグループで集まり、活動の構想を考えるなどして思いを膨らませたり、授業開始前の休み時間のうちに材料に触れることで活動をイメージしたりする子どもの姿が見られた。また、最終時の様子から、本時の終末時に行ったミニ鑑賞会で他グループからヒントを得ているグループがあることも分かった。これらのことから、前時に行った試しの活動や材料との出合い、グループ活動にしたこと、そして、仲間の活動を見たことが、思いをもつきっかけや、「つくり、つくりかえ、つくる」きっかけとなっていたといえる。今回のように、授業外のところでも子どもが思いをもち続けることができるよう、研究を進めていきたい。

●　仲間とかかわりながら活動するよりも、一人で材料と向き合う方が、より思いを膨らませることができるという子どももいる。個人で活動することも選択できるようにするとよかった。ただし、一人で活動する子どもが孤立してしまわないような配慮も必要である。

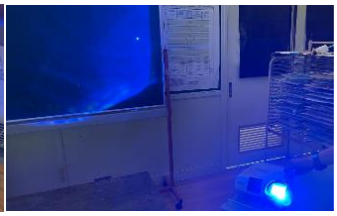
●　様々な光源を準備していたため、活動が、光源を試すことだけに留まってしまった子どももいた。光源を白色で統一し、子どもの活動の幅を広げられるとよかった。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

光を使って図工室を違う世界につくりかえる活動において、光の効果を生かした発想や構想に関する思いをもち、よりよい表し方をめざしてつくり続けることができる。

○　本時の指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり　（★は評価にかかわるもの）
1　めあてを確認し、光の効果の生かし方について、グループごとに話し合う。 ○　本時のめあて 光の効果を生かしてつくろう。 ○　光の効果の生かし方 ・　「波のゆらめきを水を使って表したい。」 ・　「光を広げてオーロラみたいにしたい。」　等 【ゆらめく光】  【広がる光】	○　表したいものが似ている者同士でグルーピングすることで、よりよい表し方をめざして、対話しながら活動し続けることができるようにする。 ★　思いを実現するために光の効果をどのように生かしていくか、前時の記録を手がかりに話し合わせることで、発想や構想に関する思いをもつことができるようにする。 ○　話合いが進まないグループには、前時の記録を提示し、表したい世界をつくるのに生かすことができないか考えさせることで、発想や構想に関する思いをもつことができるようにする。
2　本時の活動の流れを確認する。 ○　活動の見通し ・　光の効果を生かした活動→ミニ鑑賞会 →次の時間へ向けた話合い	○　ミニ鑑賞会をすることを知らせておくことで、「見る人を楽しませたい」という、学びに向かう力、人間性等に関する思いをもつことができるようにする。
3　グループごとに光の効果を生かした活動を行う。 ○　光の効果を生かした表し方の工夫 ・　新たな材料と光の組合せ ・　場所の特徴を考えた表し方 ・　光源の種類の変更 ・　光源の位置の変更 【光源】 【材料】 ○　他グループからの助言（必要に応じて） ・　「海の中なら、泡があったらおもしろそう。」 ・　「鏡を使ってきらきらさせてもいと思うよ。」 等	○　活動の様子をタブレット型端末で記録させておくことで、後から、思いを実現するまでの過程についてふりかえることができるようにする。 ★　活動が停滞しているグループには、停滞の理由を尋ね、次のように助言することで、時間いっぱい活動し続けることができるようにする。 停滞の理由：材料の扱い方が分からない。 助言「同じ材料を扱っているグループの様子を見てごらん。」 「同じ材料でも使い方が違うグループもあるね。見に行ってごらん。」　等 停滞の理由：もう工夫することはないと決めている。 助言「これ（子どもにとって新しい材料）が使えないかな。アイデアがほしいのだけど。」 「別のグループの人に見てもらって、もう工夫することはないか尋ねてみよう。」　等
4　ミニ鑑賞会を行い、次時への思いをもつ。 ○　活動内容の簡単な紹介 ○　次時に向けた話合い ・　「もっと広い範囲を照らしたい。」 ・　「もっとカラフルにしたい。」　等	○　ミニ鑑賞会をとおして、互いの活動内容に目を向けさせることで新たな気付きを促し、発想や構想に関する次時への思いをもつことができるようにする。

○　本時の評価規準

光の効果を生かした発想や構想についてグループ内で話し合い、よりよい表し方をめざして、時間いっぱい活動している。
（思考・判断・表現①）【行動観察・行動分析】